

筑波大学新聞

第255号

編集責任
筑波大学新聞
編集委員会
委員長 中村紀一

TEL: 029(853)2040・6699
E-mail: shimbun@sakura.cc.tsukuba.ac.jp
月刊

発行所
筑波大学
茨城県つくば市
天王台1-1-1

紙面から

大学発ベンチャー 設立数2年連続1位
五十嵐事件 今後も捜査は継続
世界遺産・遺跡群 大和教授ら被害調査
剣道 佐久間 悲願の日本一
ズームアップ キヤリア教育
双峰祭 体芸棟利用できず

11 10 9 5 2 2

特集 6,7

芸術の秋
巨匠と若手作家訪ねて

三三特集 3

五十嵐助教殺害事件
15年目の事件を追う

1・2年次を対象に「情報基礎」「数学」「リテラシー」プログラムニングなどの基礎的な科目を学類別に開講する。現在、転学類を手にする際の読みかえが可能なよう検討を行っている。同学群専門委員会委員長の中村紀一教授は「情報基礎」を学ぶ学生にとって教養となる科目をコア科目にした。社会倫理など支えられた。東京大で28件、東京工業大で12件だったのに対して、本学からは4件と目標だった9件を下回った。04年に中間評価を受けた本学採択の4件は、B評価にとどまった。グローバルCOEは、全分野で新たに公募する。採択拠点は274拠点から150拠点へと減らす。A評価を受けた99拠点は指定席との見方があり、厳しい競争となりそうだ。同COEでは、国内外の研究機関と連携しての申請も可能になった。本学は、産業技術総合研究所や物質・材料研究機構などと連携しており、他大学に比べ、有利な環境にある。瀧田宏樹副学長(研究担当)は「採択目標は5件。研究チーム作りなどでリーダーシップを発揮していきたい」と話した。

大学新聞の編集室がある共同研究棟の入り口に自転車乗りの付くと、アスファルトの上を這っている大きなイモムシが目についた。スズメガの幼虫だ。人の行き来が多いここにはたつぷりつぶされてしまっ。一瞬どうしようか迷ったが、帰りに死骸を見るのは後味が悪いので自転車を止めて傍らの草の茂みに移してやった。つばは来てしばらく経つが、裏山や庭がある実家と比べて虫に遭遇する回数が増えた。アパート住まいになったことも一因だが、学内に草地や木立が多い割には虫を見ないように感じていた。単純に実家ほど虫だらけではないだけなのかと思いついたが、しばらく前に自転車が故障して気が付いた。徒歩だとバタもクモも普通に目に入る。学内も実家の庭ほどではないにしろ虫は相応に多い。それによって、行きの帰りの交通手段が自転車だったから。自転車の視点では、地面に近いところにいる虫は視界に入らぬ。前述の幼虫にしても、道路の真ん中に見え過ぎている。たまたま降りの場所だったから気が付いたのだ。徒歩と自転車、数十センチメートルの高低差と速度の差で見えるものが異なってくる。自転車で通り過ぎた大学構内も、徒歩なら又違った顔を見せてくれるかもしれない。

コア・カリキュラム 5学群で概要まとまる

専門教育への架け橋に 学群ごと異なる形態で

新学群における専門教育への導入を担うものとして各学群が設置する「コア・カリキュラム」の概要が、各学群の専門委員会(まとまり)である。現在、10月下旬までに準備する予定の来年度開講科目の原案作成に向け、最終調整を行っている。07年度に「コア・カリキュラム」を設置するのは、人文・文化、人間・生命環境、理工、情報の5学群。残りの学群はさらに検討を重ねるため、次年度以降に持ち越す。

人間学群や生命環境学群では、これまで学類が開講していた科目を生かし、教員の負担を増やすことなくコア・カリキュラムを作成した。一方、人文・文化学群では新しく1からコア・カリキュラムを作成。理工学群や情報学群では、学類別に同じ科目を設置した。学群教育の充実に向けては課題もあるようだ。

◆人文・文化学群
新しく「哲・史・文・言語」の4分野から、学期別型の科目を3コマ、2年間で6コマ開設する。1・2年次が対象で、2科目の選択必修となる。07年度1学期には「思索と文化の世界への誘い」、2学期には「文学と文化の遭遇」、3学期には「日本研究の視点」を開設する。授業は各学類の教員によるオムニバス形式。同学群専門委員会委員長の山田宣夫教授(文芸)は「他学類の先生の講義に

触れる機会を多く作った」と話す。担当教員の数を増やすと科目としての統一性がなくなるおそれがあるため、適正な人数を検討中だ。

◆人間学群
1年次対象のコア・カリキュラムとして、各学類の専門基礎科目と「キャリアデザイン入門」を設置。自分の学類の科目のほかに他学類の科目を1科目ずつ履修させ、同時にキャリア教育を行う。全て学期別型だ。自由科目としては各学年を対象に新たに「人間フィールドワーク」を開

設。ボランティアなどを単位として認める。また、3年次を対象として「国際教育協力論・実習」「キャリアデザイン自由研究」も設置した。同学群専門委員会委員長の宮本信也教授(心障)は「人間学類生が履修していた科目を基に考えた。人を考える多様な視点を提供したい」と話した。

◆生命環境学群
これまで各学類が他学類向けに開設していた「生物I・II・III」「地球学概論I・II・III」と、生物資源学類の「生物資源科学入

門」「生物資源現代の課題」を「学群コア科目」とした。このうち他学類の科目を3単位以上履修する。1年次を対象に主に学期別型で開設する。同学群専門委員会委員長の林純一教授(情報生物)は「生命・環境というキーワードのもと、従来の科目を生かしてコア科目を設置した」と話した。

◆理工学群
数学の「解析」と「線形代数」をコア・カリキュラムにした。1年次を対象とし、各学類で同じ名前の科目を開設する。物理学類

除去工事を開始

教室利用にも影響 アスベスト

本学の施設の建材に含有するアスベストを除去する工事が8月25日から始まった。アスベスト除去工事に合わせて、第一学群E棟、体芸中央棟では耐震工事のほか冷暖房、電気などの内装改修も行う。これらの工事は年度内完成を目指している。アスベスト除去工事及び施設利用に大きな影響が予想される。

学群棟の耐震改修及びアスベスト除去工事に伴い、2学期から一部の授業科目について教室を変更する。校舎改修工事及びアスベスト除去工事などにあたり、教育研究上の諸問題の総合的連絡調整を行う。校舎改修等対策班(班長 川上藤典 雄副学長・教育担当)は6月23日、変更する教室については、8月に降に随時情報をTWINS上や掲示などで知らせると発表した。(11、12面に関連記事)



「まつりつくば」のねぶた。8月26、27日にかけて、土浦学園線は人で埋まった (撮影・斎藤竜太=比較文化学類)

ポストCOEプログラム

本学の方針固まる

大学の優れた教育研究拠点に、重点的に予算を配分する「21世紀COEプログラム」の後継事業として、文部科学省は来年度から「グローバルCOEプログラム(仮称)」の実施を予定している。初年度は生命科学、人文科学など5分野で採択する。これを受けて、本学では、グローバルCOEプログラムに関する相談会を7月20日、各研究科長と執行部との間で行った。当日は、COEに対する本学の考え方、方針を確認した他、候補となる教員などについて話し合った。

若手研究者の養成機能を強化するため、独自の大学院教育を支援しようとする文部科学省が昨年設立した「魅力ある大学院教育」イニシアチブに本学から2件のプログラムが採択された。人事系では、人間総合科

学研究科の「先導的・国際的な『こころ』の科学者の育成」、理工農系では、システム情報工学研究科の「実践的IT力を備えた高度情報学人育成」が採択された。06年度は全国129大学が申請し、35大学から46件が採択された。

本学は7件を申請しており、採択件数は昨年と同数の2件だった。同省からは、それぞれ年間約2100万円、約4100万円が支給される。久野節二感性認知科学専攻長は「心理という漠然としたものを、医学的な視点もふまえて解明でき、国際性を持った人材を育成していきたい」と抱負を語った。

「魅力ある大学院教育」イニシアチブ
本学から2件が採択

若手研究者の養成機能を強化するため、独自の大学院教育を支援しようとする文部科学省が昨年設立した「魅力ある大学院教育」イニシアチブに本学から2件のプログラムが採択された。人事系では、人間総合科

学研究科の「先導的・国際的な『こころ』の科学者の育成」、理工農系では、システム情報工学研究科の「実践的IT力を備えた高度情報学人育成」が採択された。06年度は全国129大学が申請し、35大学から46件が採択された。

本学は7件を申請しており、採択件数は昨年と同数の2件だった。同省からは、それぞれ年間約2100万円、約4100万円が支給される。久野節二感性認知科学専攻長は「心理という漠然としたものを、医学的な視点もふまえて解明でき、国際性を持った人材を育成していきたい」と抱負を語った。

本学は7件を申請しており、採択件数は昨年と同数の2件だった。同省からは、それぞれ年間約2100万円、約4100万円が支給される。久野節二感性認知科学専攻長は「心理という漠然としたものを、医学的な視点もふまえて解明でき、国際性を持った人材を育成していきたい」と抱負を語った。

大学発ベンチャー調査

設立数2年連続1位に

体育分野での起業目立つ

リエゾンセンターベンチャー支援手厚く

経済産業省は6月24日、全国の大学発ベンチャーの成長支援に関する調査報告を公表した。その結果、本学における05年度企業設立件数は前年度と同数の12社で9年連続全国トップ。累計では、全国5位の53社だった。本学では、産学リエゾン共同研究センター(I-LC)などがベンチャー創業に対する支援を行っている。今回の結果は、本学の整ったベンチャー支援体制による成果が大きい。

今後は企業育成も

大学発ベンチャーは大学の持つ技術や知識をビジネスにも生かすことを目的としている。分野別では、ITやバイオでの起業が多い。本学の特徴としては、国内最先端の体育研究を生かした体育分野での起業が増えている。個人向けの健康増進を支援するスマートヘルスケア(本社つくば市)やダンススクールを運営するDAS(同)などが今年に入っても、すでに3社が設立された。

の研究費や研究室などが無償で貸与される。I-LCでは、一般企業や学内向け相談窓口を設置、ベンチャー企業向けの投資会社「つくばテクノロジード」の設立に協力した。昨年12月には卒業生や地元企業などからの支援を目的に「メンターの会」が発足した。約60人の会員が知識や経験を基に、経営指導などを行う。I-LCの菊本慶教授(基医学)は「本学は環境面でも全国トップ。今後は起業支援だけでなく、育成にも力を入れた」と話した。

授業評価アンケート

総合科目 マークシートも併用

よりよい授業評価のあり方を巡って模索が続いている。TWINsを使って1学期に実施された全学共通科目授業評価アンケートの回答率は10・1パーセントで、昨年同様の16・8パーセントを6・7パーセント下回る結果だった。教育企画室室長岡本健一教授(化学)では、今学期から総合科目では、今回から試験的にマークシート方式を導入した。対象となったのは、受講者が400人の科目1科目と、200人の科目2科目の、合わせてTWINsによる授業評

価アンケートでは、これまでの「自身の取り組み」授業の満足度」という項目に新しく「授業の理解度」が加わった。これまでは「普通」「良い」「悪い」の3段階評価だったが、「普通」の選択肢をなくし、「やや良い」「やや悪い」を加えた4段階評価にした。総合科目では、今回から試験的にマークシート方式を導入した。対象となったのは、受講者が400人の科目1科目と、200人の科目2科目の、合わせてTWINsによる授業評

を行った。マークシート方式では、回答期間が10分間と短く済み、ほぼ100パーセント回答が得られるのが利点だ。同時に、携帯電話での授業評価アンケートに関する意向調査では4割が肯定的だった。2学期には総合科目について、マークシート方式の導入を進め、有効性を検証する方針だ。教育企画室長の岡本教授は「自由記述ではTWINsを使い、択一式ではマークシート方式を導入することで、授業評価方式を改善していきたい」と話した。

がわかった。マークシート方式では、回答期間が10分間と短く済み、ほぼ100パーセント回答が得られるのが利点だ。同時に、携帯電話での授業評価アンケートに関する意向調査では4割が肯定的だった。2学期には総合科目について、マークシート方式の導入を進め、有効性を検証する方針だ。教育企画室長の岡本教授は「自由記述ではTWINsを使い、択一式ではマークシート方式を導入することで、授業評価方式を改善していきたい」と話した。

がわかった。マークシート方式では、回答期間が10分間と短く済み、ほぼ100パーセント回答が得られるのが利点だ。同時に、携帯電話での授業評価アンケートに関する意向調査では4割が肯定的だった。2学期には総合科目について、マークシート方式の導入を進め、有効性を検証する方針だ。教育企画室長の岡本教授は「自由記述ではTWINsを使い、択一式ではマークシート方式を導入することで、授業評価方式を改善していきたい」と話した。

がわかった。マークシート方式では、回答期間が10分間と短く済み、ほぼ100パーセント回答が得られるのが利点だ。同時に、携帯電話での授業評価アンケートに関する意向調査では4割が肯定的だった。2学期には総合科目について、マークシート方式の導入を進め、有効性を検証する方針だ。教育企画室長の岡本教授は「自由記述ではTWINsを使い、択一式ではマークシート方式を導入することで、授業評価方式を改善していきたい」と話した。



ヨーグルトの乳酸菌を観察する子供たちと齋藤さん

セクハラで教員解雇 教育研究評議会

本学は6月20日、女子学生にわいせつな行為をしたとして、大学院の男性教授を懲戒解雇処分にした。女子学生が被害に遭ったのは02年1月。相談のため同教授の研究室を訪れた際に、わいせつな行為を受けた。その後、女子学生は1年以上にわたってフラッシュバックなどの精神的後遺症に悩み、03年6月、本学のセクシャル・ハラスメント相談員に相談し、事件が発覚した。

夏休み自由 研究お助け隊

中学生85人が参加

中学生の夏休みの自由研究を本学の技術職員がサポートする「夏休み自由研究お助け隊2006」が7月29、30の両日、総合研究棟Bで行われた。2日間でつくば市を中心に85人の中学生が参加した。この催しは技術専門官の

農村開発の人材育成

生環に新コース 海外の学生対象に

本学は国際協力機構(JICA)と協力して8月、発展途上国の農業開発に従事している実務者を対象とした「持続的農村開発コース」を生命環境科学研究科にある生物資源科学専攻内に設置した。発展途上国の農村開発に関わる人材の育成や農業技術の向上を目的としたもので、今年度はタイ、フィリピン、ベトナムなど10カ国から、行政官や民間活動団体

し、来日。その後、JICA A筑波の研修施設などで農村開発の理念や方法論などを10カ月間学ぶ。夏季休業期間には、協定校であるタイ・カセサート大学などへ、3週間の海外インターンシップもカリキュラムに組み込まれている。最終的には、各国の農業の課題などをまとめた「特別研究課題報告書」を提出し、修士号を取得する。JICAの金子健一代表者(「いずれば、海外勤務経験のある日本人も対象とする」と定員を増やすこと)も検討していきたい」と話した。

訂正 前号1面 過半数代表者選挙の記事で「労基法に違反する規則の施行」は「労基法を解除した」と誤記していること、訂正いたします。

今後も捜査は継続

五十嵐助教殺害事件



五十嵐一・助教

公訴時効(15年)が成立し、岩崎洋一学長は、「誠に残念でならない。遺族の五十嵐助教を失った悲しみに、本学においても同様だ」とコメントを発表した。

イスラム教を冒とくしたと議論になった小説「悪魔の詩」の翻訳者、五十嵐一(ひとし)助教(当時44歳、現職)の殺害事件は7月11日午前0時、殺人罪の

を絞り込めないまま現在に至っている。五十嵐助教は91年7月12日朝、人社A棟7階のエレベーターホールで致命傷となった頸部の切り傷を含む、全身十数カ所を刺され、死亡しているのを清掃員が発見された。事件現場からは、五十嵐助教とは違うO型の血液や、犯人のものとおぼしきカンフーシューズの足跡(サイズ27・5セ

ンチ)などが発見されたが、事件当時は夏休みということもあって情報が少なく、捜査は難航した。「悪魔の詩」をめぐるのは、当時のイラン最高指導者だった故ホメイニ師から著者の英作家サルマン・ラシュディ氏に死刑宣告が出され、イタリヤ語版訳者が襲撃されるなど、世界各地で騒動を巻き起こしている。日本でも日本語版の出版を見てイスラム教徒による騒動が起った。

こうした背景から、捜査本部があつたつくば中央署では、イスラム教が絡んだ国際テロの疑いが強いと、面に関連記事)

て捜査。犯人が海外に逃亡した場合は、時効が中断されるため、捜査は今後も継続する方針だ。五十嵐助教は、反イスラム的だとされる小説「悪魔の詩」の日本語版訳者。本学では現代思想などの授業を担当する他、バンド活動などにイスラム文化の周知に努めていた。

五十嵐助教の妻・雅子さんは「警察は可能な限りの捜査をしてくれたと思う。『悪魔の詩』の翻訳は主人の研究の一部に過ぎず、もっと仕事で活躍できたのに残念と語った。(3)

ノギセン 古代米アイスを販売

筑波大オリジナル商品を紹介し、大学のPRをしよと農林技術センターは7月28日から古代米アイスを販売した。売り出し日だけで約500個が売れ、3日には完売した。「古代米アイス」は赤米と黒米の2種類で1個95円、250円。同センターを企画した専門職員の岡野

個人用にした。「古代米アイス」は同センターで栽培した減農薬古代米をミキサーにかけてパウダー状にし、アイスに混ぜた。生乳は飼育している乳牛17頭から搾ったものを使用している。添加物は一切使用していない。「古代米アイス」の販売を企画した専門職員の岡野

個人用にした。「古代米アイス」は同センターで栽培した減農薬古代米をミキサーにかけてパウダー状にし、アイスに混ぜた。生乳は飼育している乳牛17頭から搾ったものを使用している。添加物は一切使用していない。「古代米アイス」の販売を企画した専門職員の岡野

個人用にした。「古代米アイス」は同センターで栽培した減農薬古代米をミキサーにかけてパウダー状にし、アイスに混ぜた。生乳は飼育している乳牛17頭から搾ったものを使用している。添加物は一切使用していない。「古代米アイス」の販売を企画した専門職員の岡野

個人用にした。「古代米アイス」は同センターで栽培した減農薬古代米をミキサーにかけてパウダー状にし、アイスに混ぜた。生乳は飼育している乳牛17頭から搾ったものを使用している。添加物は一切使用していない。「古代米アイス」の販売を企画した専門職員の岡野

個人用にした。「古代米アイス」は同センターで栽培した減農薬古代米をミキサーにかけてパウダー状にし、アイスに混ぜた。生乳は飼育している乳牛17頭から搾ったものを使用している。添加物は一切使用していない。「古代米アイス」の販売を企画した専門職員の岡野

個人用にした。「古代米アイス」は同センターで栽培した減農薬古代米をミキサーにかけてパウダー状にし、アイスに混ぜた。生乳は飼育している乳牛17頭から搾ったものを使用している。添加物は一切使用していない。「古代米アイス」の販売を企画した専門職員の岡野

個人用にした。「古代米アイス」は同センターで栽培した減農薬古代米をミキサーにかけてパウダー状にし、アイスに混ぜた。生乳は飼育している乳牛17頭から搾ったものを使用している。添加物は一切使用していない。「古代米アイス」の販売を企画した専門職員の岡野

15年目の事件を追う

五十嵐一助教授(当時44歳、現現)が91年7月に殺害された事件は11日午前0時、15年の時効が成立した。五十嵐助教授はイスラム教を信じているとして議論になった、英作家サルマン・ラシュディの小説「悪魔の詩」を翻訳したことで知られており、イスラム教が絡んだ国際テロの疑いが強いとして捜査が進んだ。本学で起こった、言論表現の自由を奪う極めて悪質な殺人事件だ。当時のマスコミや本学のセキユリティに関する問題、また、残された遺族の想い、現在の宗教学者の考えを聞いた。時効を迎えた今、事件を振り返る。(本紙・村上恵子、鈴木真理II社会学類、齋藤電太II比較文化学類、丹野直美II人文学類)

現場状況

100人体制での捜査

元最高検事当時、本学で刑法を担当していた土本武司名誉教授は91年7月12日午前8時ごろ、研究のため人文・社会学系A棟を訪れ、エレベーターに乗り、腹部にも十数箇所刺さった。「本学は夏休みに入らなかつた」と土本名誉教授はいう。7階へ着き、ドアが開くと、目の前に五十嵐助教授が横たわって



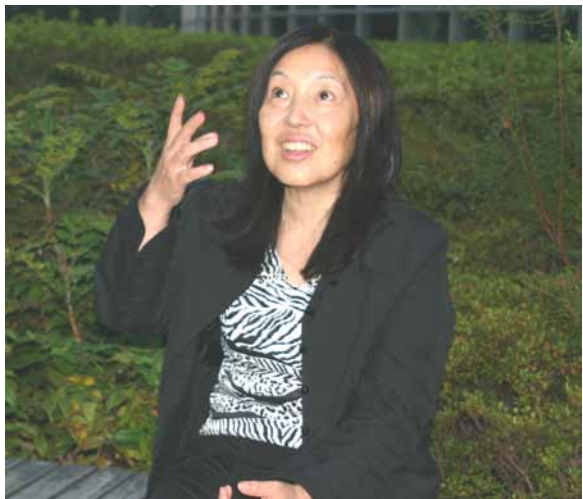
死体が発見されたA棟7階のエレベーターホール

妻・雅子さんの想い

時間と人による癒し

「仕事で恩返ししたい」

五十嵐助教授はどんな人だったか。学園祭では毎年、水上ステージ(現在の石の広場)で学生とライブや芝居をするなど、学生とも仲が良かった。また、語学に堪能で、英語のほか、仏語、独語、西語など、20カ国語以上を話すことができ、現代におけるレオナルド・ダ・ヴィンチのような人だった。研究の面においては、数学、古典、哲学など各分野の基礎を理解した上で、西洋のローマカトリ



五十嵐助教授について語る雅子さん

五十嵐助教授の頭上には財布や定期が散乱していた。犯行現場には、犯人のものとと思われる血のついた足跡が残されていた。足跡は、段を使い逃走したと見られる。27・5号の中国製のカンパシユーズと判明。犯人は4階までエレベーターを使い、その後、屋外の非常階段が残り、足跡は、段を使い逃走したと見られる。

当時の捉え方

土本名誉教授は「犯人が使った非常階段の存在すら知らなかった」という。7階のエレベーターに必ず乗ると思い、犯人はエレベーター近くのトイレで待ち伏せしていたのではないかと土本名誉教授は当時、五十嵐助教授は家族の住んでいる東京を離れ、つくばに単身赴任していた。このことから、犯人は、十分に下見し、計画を立て、五十嵐助教授の生活スタイルも把握していたと見られる。

事件発生を受け、つくば中央書には捜査本部が設置され、100人体制で捜査が進められた。当初、怨恨や男女関係、物取りといった犯行から捜査は進んだ。「当時、国際テロという考えは、すぐには浮かばなかった」と土本名誉教授は語る。

腰塚副学長も警察から五十嵐助教授の交友関係などを聴取されたという。当時すでに「悪魔の詩」絡みで騒ぎが起こっていた。外国人の犯行ということは明らかだった」と話した。

朝日新聞社アサヒコム編集部に務める松山直樹記者(平成2年比文卒)は、警察担当として横浜支局に配属されていた際、事件の情報を聞いた。「その場に倒れそうになるような衝撃を受けた」という。五十嵐助教授は、卒論指導を受けた間柄だった。

当時の新聞報道では、イスラムとの関連性よりも、学者の研究内容に対する、言論封殺の立場から事件をとらえる動きが大勢だった。東京大の研究者が、イスラムとの関連性を否定する論評を新聞紙上で発表するほどだった。松山記者は「もしこの事件が現在起きるならば、国際的なテロとして大きな注目を浴びたかもしれない」と話した。

松山記者は本年7月5-6日にかけて、朝日新聞茨城版紙上で、この事件を

マスコミ 言論封殺との報道が大勢 夜間も出入り自由な研究棟 防犯体制

取り上げた連載記事「沈黙の夏(上・下)」を担当した。「これを機に世間がこの事件について考え直し、事件に関する情報が集まってくればと思った」と語った。学校舎は、2階が出入り口で1階が薄暗く逃げやすい。構造的に、どこを見張れば安全が確保できるというものでもない」とも話す。近年本学でも宿舎に静脈認証が導入されるなど、防犯意識は高まってきた。だが、本学施設の中にはセキユリティが十分でないところも少なくない。今でも本学に入り口がいくつかあるのか、どこまでがキャンパスなのかを把握しきれないのが実態だ。

事件発生当時、また全国的に治安が良かったこともあり、学内に防犯を見直そうという声はなかった。「非常に特殊な事件と考える雰囲気は強く、防犯上の問題にすることに對して、怒りつつも抗議したりするのは当然のことだ。そういった宗教を信仰する人たちの論議は、相手の人権が尊重される範囲で理解されるべき傾向だ。

山中弘教授(哲思)の視点

この事件の犯人が逮捕された自由、色々な立場から語られていない以上、この事件論じることができなくなると「悪魔の詩」の翻訳に「許し難い犯行だ。わがイスラムと関係があるものなのかどうかは即断はできない。しかし、この著作に對するホメイニ師の死刑宣告や出版前に脅迫があったことなどから考えると、その関係が自然のように思われる。そして、もし狂信的なイスラム教徒の犯行だとすれば、宗教研究者に對してはきわめて大きな脅威だ。「信仰する」立場以外から宗教を語ることはできなくなり、客観的に宗教を研究することが難しくなる。公共的な場所において、宗教

宗教研究に大きな脅威 信仰の論議も考慮すべき

人たちが、教典など彼らに大事にしているものを、第三者の立場から一方的に糾弾したり、非難したりするのは慎重であるべきだ。世間では宗教を「いかに狂信なのではないか」と思っている。狂



山中弘教授(哲思)の視点



今月のテーマ 帰省の思い出

反射鏡

ふとした時 感じる距離

山本梨乃(人間2年)

ついでに生活するようになって1年半近く経つ。これまで実家・名古屋にはあまり長い期間帰ってこなかった。そして今回、過去最長の一週間、帰省した。これまで「知っている」という認識に帰る」という認識だったのだが、今回はなんと違った。

まず、帰省初日に電車が降りたあと、駅で出口を間違えた。よく使う駅でいつも無意識に歩いて出ていたのに、気づけば知らない場所に出てきていた。焦りと恥ずかしさのあまり、母に電話してしまった。名古屋があまりにも暑いから頭がおかしくなったのだと思いたかったが、そうではなく、私と地元との距離が広がったことを示しているのだと気がついた。

次に、雑踏に紛れている時、自分なげが安心してた。自分を感じなくてすむというか、かたまりの心

とかけらになったような気分だった。だが、それは私にとってかなりの楽な気分なのだ。私は閑散としているところより人ごみの方が安心出来たり、近くに人がいる環境の方がよく眠れたりする。普段一人暮らしで孤独を味わっている分、周りに人がいるんだ、というところを強く感じた。ついでに、戻ってきた今は、電車やバスではなく自乗車に一人で乗ってばかりいるせいかわからないが、自分が一人だということを実感する日々である。

実家の朝食 家族に感謝

佐野翔吾(自然2年)

私にとっての帰省の思い出は実家で食べた朝食です。帰省する時は、東京から夜行バスに何時間も揺られ、寝心地の悪い睡眠をこななくてはなりません。明るく朝、故郷に着くと気が乗ってばかりいるせいかわからないが、母親が早朝に自分一人だということを実感する日々である。

思い出語る 旧友との絆

福井智広(比文2年)

帰省するということは、人とのつながりを再確認することだと思ふ。また、実家に帰っただけでは、生活の場が移動しただけで、それは帰省とは言わないの

て、「また目玉焼きか、もう飽きたよ」と今考える大変失礼なことを思っていたこともありました。でも今一人暮らしをしてみても、毎日家族よりも朝早く起きて朝食を作ることがどんなに面倒くさいことかというのかわかり、すごいことだなと感じています。実

家で暮らしていた時は「早くここから抜け出した」と思っていて、実際抜け出したわけでもない、抜け出したら抜け出したでも、毎日家族よりも朝早く起きて朝食を作ることがどんなに面倒くさいことかというのかわかり、すごいことだなと感じています。実

気が出て寂しかったのだ。認めることで、私は地元というものにもう一度受け入れられるかもしれない。故郷とは、その場所だけではなく、思い出を共有する人々とのつながりそのものでもあるのだ。

ついでに生活するようになって1年半近く経つ。これまで実家・名古屋にはあまり長い期間帰ってこなかった。そして今回、過去最長の一週間、帰省した。これまで「知っている」という認識に帰る」という認識だったのだが、今回はなんと違った。

筑波時評

権を返す 小泉政権

5年5カ月にわたる小泉政権が幕を閉じようとしている。戦後では、左藤栄作、吉田茂に次ぐ三番目の長期政権だ。「最長不倒」の佐藤から田中角栄へ内閣が交替した1972年7月から今日までの約34年間に限ると、17人の首相がいるので、首相一人当たりの在任期間は約2年である。この間、在任期間が千日(約2.7年)を超えたのは中曽根康弘と小泉純一郎の二人しかない。小泉は、主要閣僚や党三役の経験がなく、自民党の「常識」では総理総裁になれない人物だった。その小泉が長期政権を実現

構造改革と日米同盟 小泉政治の5年5カ月



竹中 佳彦

すると、政権発足当初、どれだけの人が考えただろう。むしろ首相の評価は、在任期間の長さではなく、実績の量と質によらねばならない。小泉政権を批判することばかりが後世の歴史家は、小泉を偉大な宰相と評するかもしれない。

その理由の第一は、構造改革という「小さな政府」路線を推進したからである。バブル崩壊後(今年7月に)なくなった橋本龍太郎を除く、歴代内閣は、財政再建よりも

中曽根ら日米関係を重視した首相は、たとえ在任中に不人気であっても、のちに高く評価されている。今後日米基軸外交は踏襲されるだろうから、小泉も、かつて自衛隊のPKO派遣に反対した一貫性のなさや、靖国参拝による対東アジア

団の民営化は、旧田中派が築き上げた自民党システムを掘り崩す可能性があり、「抵抗勢力」が激しく反発した。小泉は、派閥や族議員を軽視し、メディアを効果的に用いて国民の支持を調達し、経済財政諮問会議や官邸スタッフの政治任用など

と先のこと考えていること。私が日本に着いた時は秋だったのに、デパートなどで冬の服が売られていました。また、部活動の学生は二年間の予定をわかっていて、来年のイベントまで考えていることに驚きました。時間がすぎて早く経ってしまったような感じがします。が、先に考えたら、思いがけないことをすべし直せるし、だから日本人は完璧にも

第三は、都市部から農村部に利益を還元して集票活動を行う自民党システムと、政府・与党の意思決定システムを築き上げたことである。中曽根の国鉄改革も難航したが、それでもそれは社会党の支持基盤の解体にすぎなかった。これに対し、小泉以降の首相にとって先例となる。ただし官邸主導は、小泉が関心を持つ問題に限られ、それ以外は官僚などに丸投げされた。さらに道路公団民営化は、道路族の前

と素晴らしいと思ふ。ブラジルでは先生や責任のある人がいないと、練習は頑張りがなくなってしまう。あとは、飲み会のこと、みんなで飲みを全部集めることも驚きました。ブラジルでは異性間の友情が理想的ですが、日本ではベストフレンドとしては、同性同士が一般的だ。男女関係はまだ理解できません。付き合っているときに恥ずかしうて他の人に隠そうとしたり、手をつないで歩かないというカッパルがいっぱいあります。ときどきつなぎたなくてもコントロールするようなカッパルも見かけます。そんな遠慮しなくていいと思つてすけね。



不思議な日本、だから好き

日本には不思議で、奇妙で、たまに残念なこともありますが、それでも面白く、すばらしいなど思わせてくれるから、だから日本が好きなんだと思えますね。

三つ目は、男子は男子のグループで、女の子は女の子のグループで



ハファエレ・ジャファー

日本に来てから、「あ、これが変だ!」と思ふことがいくつかある。特に印象的だったことをこれからお話しします。

一つ目は日本人は、つなぎのことを考えていること。私が日本に着いた時は秋だったのに、デパートなどで冬の服が売られていました。また、部活動の学生は二年間の予定をわかっていて、来年のイベントまで考えていることに驚きました。時間がすぎて早く経ってしまったような感じがします。が、先に考えたら、思いがけないことをすべし直せるし、だから日本人は完璧にも



留学生の目

今では帰省のひとつの楽しみになっていきます。帰る家があるという事は本心にありたいことと感じています。これからは家族、自分に関わるすべての人に対する感謝の気持ちを忘れずに生きていきたいと思ふました。

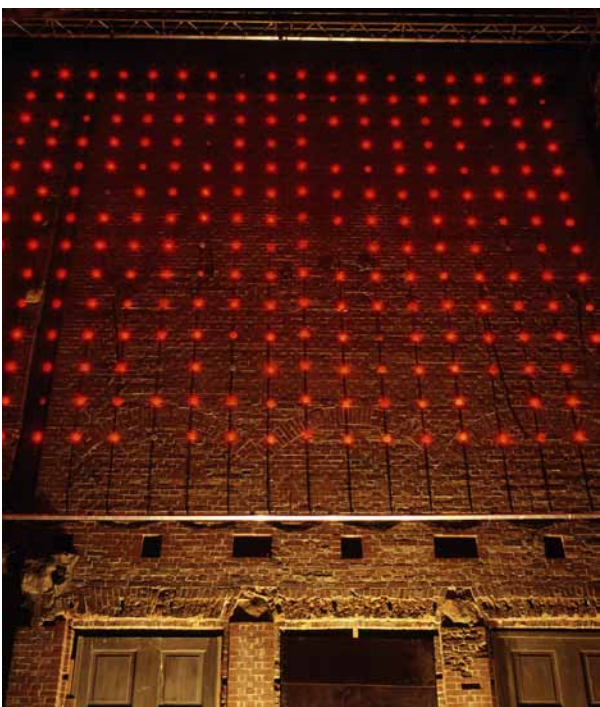
ついでに生活するようになって1年半近く経つ。これまで実家・名古屋にはあまり長い期間帰ってこなかった。そして今回、過去最長の一週間、帰省した。これまで「知っている」という認識に帰る」という認識だったのだが、今回はなんと違った。

次号のテーマは
秋です

連絡先
TEL 029-853-0909
e-mail shinhun@sakurac.c.s.u-tokyo.ac.jp

芸術の秋

巨匠と若手作家を訪ねて



(撮影者・大塚聡)

逢坂卓郎 教授 (総合造形)



本学には国立大学としては珍しく、芸術を学べる専門学群研究科がある。教員・学生が発信する芸術作品はテーマ、素材、技法など多様に富んでいる。これから訪れる「芸術の秋」を前に、創作に取り組む5人の芸術家たちを訪ねた。(本紙・石橋知佳、鈴木真理、藤井沙織、社会学類、小笹諒介、体育専門学群)

真っ暗な空間に、壁に整列された発光ダイオードの微弱な光がポツと光ってだんだん消えていく。あちこちに息づく光の全く不規則な散りが、驚きのあまり言葉が失った鑑賞者たちを包み込む。廃墟となったドイツ・ベルリン・ミッテ地区にあるセントエリザベス教会で05年に行われた「MIRAGE」展での光景だ。

高さ21メートルにもなる壁に並べられた、一つひとつのダイオードがいつ発光するかは、自然現象のため予測できない。その光の明滅は、鑑賞者たちに不思議な感じを与える。

逢坂教授がこの光を意識し始めたのは、東京芸術大イルミネーションとは異なる。逢坂教授がこの光を意識し始めたのは、東京芸術大イルミネーションとは異なる。逢坂教授がこの光を意識し始めたのは、東京芸術大イルミネーションとは異なる。

ある時、北アルプスでの登山中、夕日が沈む光景に出会った。すべての色が刻々と変化していくのを目の当たりにした。「光の変化が、一つの空間を作っていくところに魅力を感じた」

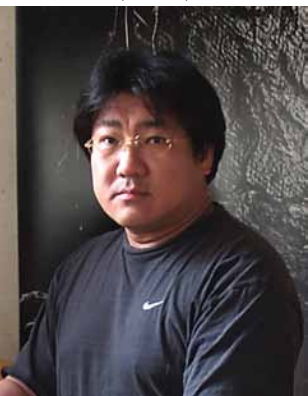
逢坂教授の作品は美術館にとどまらない。レストランや舞台の照明などにも取り入れられている。芸術専門学群で受け持っている授業では、昨年「創作演習Ⅱ」で学生31人とともにクリスマス期間中の水戸芸術館をライトアップした。今年は12月に、もりやまの里(茨城県守谷市)での展示を予定している。

見えない光を可視化

ライト・アートは光を点けてみないと感じることができない。点けてから調整を施す。そのため、小さなサンプルを作り、アトリエで試してから大量生産に入る。「うまく点くか毎回不安」。それでも今まで制作を続けてきたのは「人知を超えたところに興味があるから」といふ。



齋藤敏寿 助教授 (陶芸)



日高健一郎 教授 (世界遺産)



建築が持つ生命力

トルコ最大の都市・イスタンブール。ボスボラス海峡を見下ろす高台に、直徑30メートルを超えるドームを持つ大聖堂がある。6世紀に建造された聖ソフィア大聖堂。写真家は、ピザンティン建築として最大の規模を誇る。その威厳と美しさは古くから見る者を引きつけ、1985年には世界遺産に指定された。

人間総合科学研究科で世界文化遺産学専攻長を務める日高健一郎教授(芸術)は、90年から毎年、聖ソフィア大聖堂の建築調査のフィールドに赴いている。直線が好きで建築の中で、ドームという曲がったものを苦渋して造ったところが面白い」と日高教授は言う。

着目するのは、その「独創的な建築構造」だ。当時ローマの教会堂では、円筒の上にドームを乗せたものの上にドームを乗せたもの

躍動する陶の世界

直徑5センチほどの筒をいくつも繋ぎ、蜂の巣状にしたものや、厚みのある木の皮のようなもの。それらが「やきもの」の一つひとつは、色や質感を特徴的であるが、どれも平面的だ。そのやきものを組み合わせたことで、うねりやねじりなど表現に多様な性が生まれる。齋藤敏寿・助教授(芸術)の作品「archetype 0002」は写真Ⅱは、1963年から作品名には「archetype」と付けている。ユング心理学の分野で、無意識の一番深い部分にある人間の根源(元型)を意味する言葉だ。ユングは「人間の元型はみな共通であり、それ故に深層心理では、お互い理解し合える」と考えた。

その表現は、おのずと抽象的になる。鑑賞者は「人間」や「恐竜」といった真し続ける」と話した。

展覧会情報

- ◆「ライフ」水戸芸術館現代美術ギャラリー。10月9日まで。出展は日野之彦(洋画)。
- ◆「巨大昆虫探査艇キョロ口」越後松之山森の学校キョロ口。10月1日まで。出展は橋本典久ほか(構成総合造形感覚伝達デザイン)。
- ◆「ヒトマイマイのヒトマイマイ展」筑波大学アートギャラリーT+。9月19-22日。出展は園子哲哉ほか(彫塑)。
- ◆「VOCAに映し出された現在 いまいるところ」宇都宮美術館。9月18日まで。出展は日野之彦ほか(洋画)。
- ◆「人間の不思議展」筑波大学アートギャラリーT+。9月11-15日。出展は格内麻也子ほか(総合造形)。
- ◆「現代陶芸の粋」東日本作家を中心に「茨城県陶芸美術館」。9月10日まで。出展は齋藤敏寿(陶芸)。
- ◆「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2006」越後妻有2市町7600平方キロメートル(新潟県十日町市津南町)で。9月10日まで。出展は安藤那廣ほか(構成総合造形感覚伝達デザイン)。
- ◆「カマトトぶってんじやないわよ、ジューゲム、しゅー」筑波大学アートギャラリーT+。9月8日まで。出展は細井麗子(総合造形)。
- ◆「水彩」筑波大学アートギャラリーT+。10月16-20日。出展は真根美穂(日本画)。

狩野宏明さん (洋画)



森の中を魚やくらげが浮遊し、珊瑚礁が木々に交じって生きている。森と海の生命が共存し、不思議な調和を醸し出している。幻想的な雰囲気だが、鮮やかな色彩と深い陰影が生々しく鮮明な印象を刻む。

この作品「garden」(123×36メートル)は写真IIには現実とイメージの狭間の世界が表現されている。本作品は04年度本学卒業制作展芸術賞を受賞した。制作者の狩野宏明さん(人間総合科学研究科博士課程芸術学専攻洋画)

コース2年は「人と自然の両方の力が影響し合っている」という庭園の性質に、イメージと物質の織りかざった姿である絵画を「感じる」と語る。

狩野さんは、2年前から「garden」という題で作品を15作描いてきた。本作はその5作目で、およそ2カ月かけて描き上げたという。

「一部分を細かく描くのが好き」という狩野さんは、「garden」シリーズの制作中、江戸時代の京都の人々の生活を細密に描き込んだ屏風画「浴中浴外図」に影響を受けたという。画面いっぱいに精緻な植物や生物が描かれた5作目や、屏風形の前作を見る

「庭園」が表す虚と実

過去でもなく未来でもなく、海でもなく山でもない。そういった中間的なものに、変化の可能性を感じるといふ。

狩野さんは昨年、大樹の生命力をダイナミックに描いた「polyphon」で第59回二紀展奨励賞を受賞した。今年も、2、3月に東京で開かれた若手美術作家の小作品公募展「キー・ワンダー・シード2006」に「garden」の15作目を出展した。

5作目の「garden」は2年前から秋葉原アイビルにある本学法科大学院の14階フロアに飾られている。事務所が開いている平日の午前10時から午後5時までなら、誰でも見ることができるといふ。

狩野さんが「garden」を描き続けるのは、つい過去から新しい未来へ進むための救済のイメージを「庭園」に託しているからだそう。鑑賞者にとって、絵を見る時間がよく



上蘭隼さん (彫塑)



転換点となる、そんな作品を描き続けたい」と

画家は狩野さんの子供のころからの憧れだ。「これからはもっと絵を描いていこう」と表現の根本には、絵や見てくれる人への愛が、アーティストという

よりは絵がきき、書きたい」

絵の具の匂いがたちこめ、アトリエで、いつも絵をカタターで180センチほどの長さで切って、溶接する作業を繰り返した。

上蘭さんは廃材を集め、それを素材として制作している。作品のイメージは出会う廃材の形やサイズと表現したいものがうまく重なったときに生まれる。廃材を使用する理由は金銭面の事情はもとより、廃材特有のさびがあるからだ。「捨られた鉄は長時間かけて風雨にさらされ、自然のさびを出す。人工的な技術では再現できない」と語る。そのさびから作品のイメージやひらめきを得ることもある。

学群生のときは石、木、粘土などを素材に彫塑を学んでいたが、「金属ならではの作品に向かった痕跡がしっかりと刻まれる」と鉄の素材性に魅せられた。

鉄は建築物や道具として人間の生活を支える素材である。一方、丈夫で扱いやすい特性から戦車や武器など人間を傷つける素材でもある。上蘭さんの作品には、このような「鉄が持つ」といふ両極端な性質を作品で見せたい」との思いが込められている。

鉄を扱う手法は、溶接、溶断、たたくことによる成形など多岐にわたる。これまでアーノ溶接やガス溶接を駆使して抽象彫刻を4作品制作してきた。はじめたばかりのころは溶接が技術を知らなかつたため、ひたすら溶接して作品を作り出した。

石でも木でも粘土でも素材をどう造形していくか、根本は同じだ。だが、「鉄の塊はないのだから、集めて自分で作るしかない。たいてい少しづつ造形していく過程が面白い」。現在は、技術職員に技術を教わりながら、表現の幅を広げようと模索中だ。銀やブロンズにも挑戦したいという。鉄をどう生かすか、廃材がもともと持っていた形をどうまで崩すか。そのせめぎ合いが難しいところでもあり、面白く感じていると語った。

鉄をどう生かすか



X線CT撮影装置を開発し、従来のX線CT撮影装置の1000倍の感度の撮影に成功したと発表された。ガンやアルツハイマー脳の観察に大きく貢献すると予想され、創薬などの分野での応用も期待されている。

武田講師が開発した新型X線CT「位相コントラストX線撮影技術」は、X線が生体を透過する前後でX線の進み方の違いを画像化する技術。高純度シリコン単結晶のインゴットから作成した干渉計という位相検出装置の間に試料を入れ、X線を入射させ、試料を透過したX線の進み方のズレを干渉縞として捉え、画像化する。感度1000倍の世界では、よの細かい病理観察が可能となる。たとえば抗ガン剤によりガン細胞が壊死していく様子や、アルツハイマー病の脳内にできるシミ状の斑点「アミロイド斑」が、軟部組織や、毛細血管のよう細かい組織の撮影には、造影剤を投与して像の輪郭をはっきりさせる必要があった。血管を撮影する際に使われるヨウ素造影剤などがその典型だ。また動物レベルの研究開発の開始時点で、可能な大型干渉計の製作など「不可能」であると考え、ドイツの高名な研究者に言われたという。

しかし生体を構成する可能な大型干渉計の製作など「不可能」であると考え、ドイツの高名な研究者に言われたという。

研究開発の開始時点で、可能な大型干渉計の製作など「不可能」であると考え、ドイツの高名な研究者に言われたという。

新型CT撮影感度1000倍の世界 ガン細胞の観察に期待

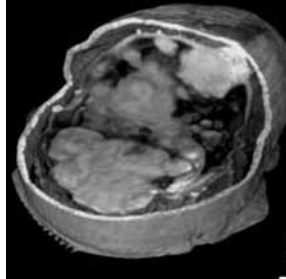
加齢とともに増加していく様子を観察することが出来るという。

従来のものでは、X線が人体組織を透過した前後の波の振幅の変化を測定する。物質ごとにX線の透過率は異なるため、その違いが像となって表れる。

研究であるが、新型X線CTでは、造影剤を使わずとも、詳細な撮影が可能となる。

干渉計そのものは41年前、ドイツの物理学者ボレンによって考案されていた。X線位相シフトを捉える干渉計の作製は難しく、大きな視野の撮影

不純物を含まない、シリコン分子のみで作られる大口径シリコン結晶の延べ棒を作るのは容易ではなかった。また、非金属材料のシリコンはたわむため、厚さ1ミリの程度のシリコン板を寸分の狂いもなくX線の入射角度と垂直にするのも容易では



マウスに移植した大腸ガンのX線CT撮影画像

卒業生からの手紙



今年3月に大学を卒業し、4月から社会人として東京で働いています。現在私は、半導体生産ラインのシステム開発に携わっています。大学で学んだのは図書館学でしたが、共通科目としてプログラミング言語やデータベースの授業を受けたのがきっかけとなり、現在の仕事に就きました。

今関わっている仕事ではRDB(リレーショナルデータベース)関連の仕事をしています。システムのテストやプログラムの作成、仕様修正・作成などの作業を行っています。

大学で習ったプログラミング言語やデータベースの知識は、今の仕事で大変役を担っています。最初のうちは仕事を覚えるのが大変でしたが、また自分が担当するものは、システムの中の小さな一部分なので、開

積極的に新しい知識を

ていましたが、自分が作ったものがシステムの一部として機能し、それを扱うユーザがいて、品質が問われるということを経験することができました。

業務に入り、また2カ月しか経っていないのに自分ができているのは限られている。積極的に新しい知識を身につけていくことが、柔軟な考え方を身につけることにつながります。新しい知識を身につけることで、自分の視野が広がります。

勢はどんなときでも必須です。物事をいろんな方向から見て考え、どんな新しい知識を身につけていくべきか、柔軟な考え方を身につけることが重要です。新しい知識を身につけることで、自分の視野が広がります。

平成17年度図書館情報専門学群卒業

世界大学選手権

サーブ冴え銅メダル

伊藤 日本勢を牽引



銅メダルを首に掛け満面の笑みを見せる伊藤

卓球
世界トップレベルの学生が参加する第16回世界大学卓球選手権大会が7月4～9日までスロベニアのマリボルで行われた。本学から伊藤みどり(体専3年)が日本代表として4種目出場。女子シングルスで銅メダルを獲得した。銅メダルは、同大会に出場した日本人選手の中では最高成績だった。同団体、ダブルスではベスト8、混合ダブルスではベスト16とあと一歩のところまでメダルを逃した。伊藤は女子シングルスで

ベスト4まで中国選手とぶつからない組み合わせた。ベスト4までは行きたくない。その思いを胸に1回戦を3-1、2回戦を3-0と順当に勝ち上がった。準々決勝はセットオールまでもつれる激戦になったが、最終セットを11-4で取り、ベスト4に進出した。

水泳
世界の強豪が集うヨーロッパ大会が6月3～11日にかけて行われた。第1戦は3、4日にモナコ。第2戦は7、8日にフランスのナニエ。第3戦はスペインのバルセロナで行われた。本学からは佐藤樹(体専2年)と岡崎晃一郎(同2年)が2人が出場した。佐藤が

第2、3戦の200メートル平泳ぎで優勝。岡崎が第3戦の100メートル平泳ぎで優勝した。佐藤は100、200メートル平泳ぎ、個人メドレーに出場。岡崎は50、100、200メートル平泳ぎ、200メートルメドレーに出場した。大会を通じたタイムアップに食いついた佐藤は、「満足できる内容」と話した。岡崎は「第1戦で悪かったのをうまく修正できた」と話した。

大舞台楽しむ「強さ」
白木コーチが「うまく体を浮かせながら進む」と話す器用な泳ぎは、効率が高く、無駄な体力消費を抑え、全国トップレベルのスタミナを生み出し、思う時点からあと一歩踏

中学、高校とその年代では常に全国上位に入っていた西尾だったが、年代の関係ない日本選手権では、過去一度も決勝に残ったことがなく、いつも予選落ちだった。大

休養をほさんで臨んだ準決勝。ドイツのボルマイヤーと対戦した。ボルマイヤーとは4年前、オランダオープンで伊藤が勝っている。今回、伊藤は2セットを落とすが、そこから持ち前の集中力で3セット連続し粘りを見せた。しかし6セット目を14-12で落とすと、7セット目も3点及

びだった。女子剣道の有田祐二監督(体育・講師)は「その慎重さが逆に良かった」と分析する。佐久間の特長は積極的な技を出していく思い切りの良さだが、それが時に無謀な攻め

となることがあった。この日は緊張もあってか、抑え気味で我慢強い剣道が出来ていたという。「打てると思っても我慢して、本当に打てるところで技を出せて対戦し、延長に持ち込んだ。藤田は相手を投げ、効果をとったかと思われたが、審判に取り消された。「油断してしまった」と体

勢を立て直せず、固め技をかけられ一本負けした。白木は1回戦、ブラジルの選手に一本負けを喫した。「日本柔道への期待に応えなかったのに」と語る白木。重量級にも関わらず、スピードのある柔道を仕掛けてくる外国人選手に衝撃を受けたという。その後、敗者復活戦を勝ち進み、

3位入賞を果たした。白木、藤田は優勝を狙っていたにも関わらず敗れた。雪辱を果たすべく、10月に行われる世界ジュニアの出場権がかかる。9月9～10日の全日本ジュニアでの優勝を目指す。昨年の同大会では黒岩翼(同2年)が優勝しており、好成績が期待される。

に盛り上がった。このまま流れを持って行きたい五将戦。馬場大輔(同3年)が、対戦相手の30キログラムの体重差をもとめせず、激しく組みかかった。しかし倒され、払い腰で一本負けを喫した。その後、白木周太郎(同1年)が優勢負け、佐藤武尊(同4年)が優勢勝ちして迎えた副将戦、「大将の秋本啓之(同3年)までまわしたかった」と語る松井崇(同4年)は、大内刈りで一本をとられ、本学の敗退が決まった。試合後、法兼は「11月の

体重別団体戦では雪辱したい」と語った。女子は初日、2回戦から出場した。先鋒の福見友子(同3年)が引き分けたあと、2人続けて敗れた。その後、柏木由香(同2年)と杉本美香(同4年)が勝利したが、判定で本学の2回戦敗退が決まった。

決勝戦でメンを防ぐ佐久間陽子(体専3年)。慎重な試合運びを見せた。(日本武道館)



決勝戦でメンを防ぐ佐久間陽子(体専3年)。慎重な試合運びを見せた。(日本武道館)

剣道
学生剣道の個人日本一を決める第54回全日本学生剣道、第40回全日本女子学生剣道選手権大会が7月2日、日本武道館(東京・千代田区)で開催された。同大会には各予選を勝ち抜いた、男女合わせて256人が出場した。本学からは7人が出場し、女子では佐久間陽子(体専3年)が初優勝で悲願の日本一を達成した。同大会で本学勢が優勝したのは、菊地沙織(平成十六年度体専卒)以来2年ぶり12回目。男子では、メー司(同4年)が惜しくも準決勝で敗れた。

柔道
毎年夏、20歳以下の選手で争われる欧州柔道ジュニア国際大会がチェコで8月5～6日、ドイツで8月13日に行われた。本学からは白本周太郎(体専1年)がチェコ、ドイツ両大会で藤田康恵(同)がドイツ大

に出場した。白本はチェコ、ドイツでそれぞれ2位と3位、藤田はドイツで2位となった。チェコ大会で白本は決勝に進出、同じ日本勢の石井竜太(東海大)と対戦した。「相手とは練習で勝っている。勝てると思った」と白本。しかし一本をとら

全日本学生柔道優勝大会
男子 明治大に敗れる
2回戦で敗退
女子

学生柔道の団体戦日本一を決める全日本学生柔道優勝大会が6月24、25の2日間、日本武道館で行われた。本学は男子が3回戦で明治大に敗れ、女子が2回戦で

仙台大に敗れた。男子は1回戦を全勝、2回戦を6勝1敗で勝ち進んで、優勝回数最多の16回を誇る明治大と対戦した。先鋒の森本翔太(体専3年)が有効をとられ優勢負けを喫したあと、法兼真(同4年)が畳があがった開始16秒で相手の足を刈って真緑の一本勝ちを収める

年が有効をとられ優勢負けを喫したあと、法兼真(同4年)が畳があがった開始16秒で相手の足を刈って真緑の一本勝ちを収める

松井 大内刈り ○土田 秋本 ○優勢 日當

学に入り、新たに筋力トレーニングを取り入れた。筋力がつき、スタミナ、スピードがついた。

本学に進んだのは「環境が整っていたから」だという。室内に50メートルプールがある大学は少ない。それに加え、周囲のレベルが高く、よい影響を受けているという。水泳は、人によって合う泳ぎ方が違うスポーツなので、技術的に盗めることと少ないが、トップ選手の練習に対する意識など、「精神面でよい影響を受けている」と話す。

「練習がきついのは当たり前前、手を抜かないのも当たり前」と考える。練習に対する真摯な姿勢、自慢のスタミナに加え、スピードをつけ、目標はインカレ、さらには日本選手権での表彰台だ。「これまで来た、あとはいくらだ」。水泳部期待の新星は、淡々とその座を狙う。(本紙・小笹諒介) 体育専門学

「練習がきついのは当たり前前、手を抜かないのも当たり前」と考える。練習に対する真摯な姿勢、自慢のスタミナに加え、スピードをつけ、目標はインカレ、さらには日本選手権での表彰台だ。「これまで来た、あとはいくらだ」。水泳部期待の新星は、淡々とその座を狙う。(本紙・小笹諒介) 体育専門学

「練習がきついのは当たり前前、手を抜かないのも当たり前」と考える。練習に対する真摯な姿勢、自慢のスタミナに加え、スピードをつけ、目標はインカレ、さらには日本選手権での表彰台だ。「これまで来た、あとはいくらだ」。水泳部期待の新星は、淡々とその座を狙う。(本紙・小笹諒介) 体育専門学

「練習がきついのは当たり前前、手を抜かないのも当たり前」と考える。練習に対する真摯な姿勢、自慢のスタミナに加え、スピードをつけ、目標はインカレ、さらには日本選手権での表彰台だ。「これまで来た、あとはいくらだ」。水泳部期待の新星は、淡々とその座を狙う。(本紙・小笹諒介) 体育専門学

「練習がきついのは当たり前前、手を抜かないのも当たり前」と考える。練習に対する真摯な姿勢、自慢のスタミナに加え、スピードをつけ、目標はインカレ、さらには日本選手権での表彰台だ。「これまで来た、あとはいくらだ」。水泳部期待の新星は、淡々とその座を狙う。(本紙・小笹諒介) 体育専門学

「練習がきついのは当たり前前、手を抜かないのも当たり前」と考える。練習に対する真摯な姿勢、自慢のスタミナに加え、スピードをつけ、目標はインカレ、さらには日本選手権での表彰台だ。「これまで来た、あとはいくらだ」。水泳部期待の新星は、淡々とその座を狙う。(本紙・小笹諒介) 体育専門学

「練習がきついのは当たり前前、手を抜かないのも当たり前」と考える。練習に対する真摯な姿勢、自慢のスタミナに加え、スピードをつけ、目標はインカレ、さらには日本選手権での表彰台だ。「これまで来た、あとはいくらだ」。水泳部期待の新星は、淡々とその座を狙う。(本紙・小笹諒介) 体育専門学

全日本女子学生剣道選手権大会

佐久間 悲願の日本一

剣道

学生剣道の個人日本一を決める第54回全日本学生剣道、第40回全日本女子学生剣道選手権大会が7月2日、日本武道館(東京・千代田区)で開催された。同大会には各予選を勝ち抜いた、男女合わせて256人が出場した。本学からは7人が出場し、女子では佐久間陽子(体専3年)が初優勝で悲願の日本一を達成した。同大会で本学勢が優勝したのは、菊地沙織(平成十六年度体専卒)以来2年ぶり12回目。男子では、メー司(同4年)が惜しくも準決勝で敗れた。

休養をほさんで臨んだ準決勝。ドイツのボルマイヤーと対戦した。ボルマイヤーとは4年前、オランダオープンで伊藤が勝っている。今回、伊藤は2セットを落とすが、そこから持ち前の集中力で3セット連続し粘りを見せた。しかし6セット目を14-12で落とすと、7セット目も3点及

世界の強豪が集うヨーロッパ大会が6月3～11日にかけて行われた。第1戦は3、4日にモナコ。第2戦は7、8日にフランスのナニエ。第3戦はスペインのバルセロナで行われた。本学からは佐藤樹(体専2年)と岡崎晃一郎(同2年)が2人が出場した。佐藤が

第2、3戦の200メートル平泳ぎで優勝。岡崎が第3戦の100メートル平泳ぎで優勝した。佐藤は100、200メートル平泳ぎ、個人メドレーに出場。岡崎は50、100、200メートル平泳ぎ、200メートルメドレーに出場した。大会を通じたタイムアップに食いついた佐藤は、「満足できる内容」と話した。岡崎は「第1戦で悪かったのをうまく修正できた」と話した。

「練習がきついのは当たり前前、手を抜かないのも当たり前」と考える。練習に対する真摯な姿勢、自慢のスタミナに加え、スピードをつけ、目標はインカレ、さらには日本選手権での表彰台だ。「これまで来た、あとはいくらだ」。水泳部期待の新星は、淡々とその座を狙う。(本紙・小笹諒介) 体育専門学

「練習がきついのは当たり前前、手を抜かないのも当たり前」と考える。練習に対する真摯な姿勢、自慢のスタミナに加え、スピードをつけ、目標はインカレ、さらには日本選手権での表彰台だ。「これまで来た、あとはいくらだ」。水泳部期待の新星は、淡々とその座を狙う。(本紙・小笹諒介) 体育専門学

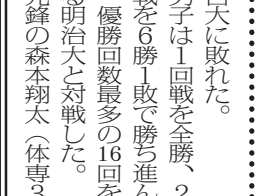
「練習がきついのは当たり前前、手を抜かないのも当たり前」と考える。練習に対する真摯な姿勢、自慢のスタミナに加え、スピードをつけ、目標はインカレ、さらには日本選手権での表彰台だ。「これまで来た、あとはいくらだ」。水泳部期待の新星は、淡々とその座を狙う。(本紙・小笹諒介) 体育専門学

「練習がきついのは当たり前前、手を抜かないのも当たり前」と考える。練習に対する真摯な姿勢、自慢のスタミナに加え、スピードをつけ、目標はインカレ、さらには日本選手権での表彰台だ。「これまで来た、あとはいくらだ」。水泳部期待の新星は、淡々とその座を狙う。(本紙・小笹諒介) 体育専門学



水泳部期待の新星 西尾裕樹(体専1年)

今年4月に行われた日本選手権、男子1500メートル自由形・決勝の舞台で、本学水泳部期待の新星、西尾裕樹(体専1年)は8位入賞を果たした。「チームの応援のおかげで、のびのびと泳げた」と話す西尾は、「大舞台は緊張よりも楽しみの方が強い」と頼もしい。「きつい練習を淡々とこなすところがすごい」と白木孝尚コーチ(体育・準研)もその精神的強さを評価している。1500メートル自由形は、肉体的にも精神的にも負担の大きい種目。普段の練習では、もっこれ以上できない、限界だと思ふ時点からあと一歩踏



水泳部期待の新星 西尾裕樹(体専1年)

今年4月に行われた日本選手権、男子1500メートル自由形・決勝の舞台で、本学水泳部期待の新星、西尾裕樹(体専1年)は8位入賞を果たした。「チームの応援のおかげで、のびのびと泳げた」と話す西尾は、「大舞台は緊張よりも楽しみの方が強い」と頼もしい。「きつい練習を淡々とこなすところがすごい」と白木孝尚コーチ(体育・準研)もその精神的強さを評価している。1500メートル自由形は、肉体的にも精神的にも負担の大きい種目。普段の練習では、もっこれ以上できない、限界だと思ふ時点からあと一歩踏

キャリア支援

卒業後の進路や就職活動の相談窓口として本学では、初期から本学棟2階に就職課(現在)が設置されている。このほか、生命環境科学研究科では昨年6月、第二学群B棟2階に「キャリアデザインルーム」を設置した。「キャリア支援」に取り組み双方の活動を紹介する。

就職課では、幅広い就職課の久保田優専門員は「9月に大会館で行う全



相談に訪れる学生の顔は真剣だ(キャリアデザインルームで)

体方イダンスにはせひ参加してほしい」と話している。個別

ズームアップ

約2週間と短い。TICでは半年間、1年間など期間が自由。実務を行うことで技術が身に付き、社会・会社を深く知ることもできるのが強みだ。夏期休業中にTICのサポートでインターンシップを経験した学生からは「働く意味や職業選択など社会を見る目が広がった」といった感想が寄せられている。

働く意味をインターンで知る

自発性を引き出す取り組みも

時期に応じた相談を行っている。新たな取り組みとして、今年1月には筑波学院大、つくば市などからなる「つくばインターンシップ・コンソーシアム(TIC)」を設立した。東京で行われているインターンシップでは期間が

することがねらいだ。キャリアデザインルーム

生命環境科学研究科長の井上勲教授(構造生物)は「いろいろな職業があることを知った上で、職業選択を行ってほしい」と話す。キャリアデザインルームでは、学生スタッフと社会人アドバイザーが補完し合いながら活

動しているのが特徴だ。学生スタッフの後藤康文さん(人間4年)は「自分も就職活動に悩んで相談にきていた。さまざまな相談でも利用してほしい」と話す。

活動はプロのキャリアアドバイザーや就職が決まった4年生や院生8人

による個別相談のほか学生主体の企画イベントを実施している。チーフアドバイザーの加藤彦次郎さんは「学生が早い段階からキャリアについて考える手助けをしたい」と話す。

キャリアデザインルームが一番力を入れている企画の一つは、参加者が一つのテーマについて気軽に語り合える場「しゃべり場子屋」だ。6月28日に行われた第一弾のテーマは「アルバイト経験の生かし方」。今後も「就職と進学」「恋愛」といった身近なテーマで隔週の開催を予定している。9月20日には大会館国際会議室で採用コンサルティング会社代表、長谷真吾氏を招いての自己分析セミナーを行う予定だ。

(本紙・藤井沙織II社会学類)

と改組されたことについて「早くから専門分野に集中できる」(高3女子・埼玉県)「すでにやりたいことが決まっている受験生にとっては、このほうがいい」(同男子・神奈川県)といった声が聞かれた。

本学の安全を考える、セーフティプロジェクト(座長・吉武博通副学長、総務・企画担当)の今年初めてとなる大会が7月5日、行われた。昨年の各タスクフォースの検討結果などについて確認された他、地域の自警団と本学が共に、防犯パトロールをしようという、「地域・大学合同防犯パトロール(仮称)」についても説明があった。

地域・大学合同防犯パトロールは、つくば市内にある自警団の人々と学生が協力してパトロールをしようというもの。つくば市防犯自警団連絡協議会の会長を務める、芳賀脩光・名誉教授が大学

セーフティプロジェクト 地域住民とパトロール

学生生活課「学生もぜひ参加を」

側に参加を呼びかけた。地域住民からも学生の参加を求める声があるという。パトロールでは、天久保、春日地区を週2回程度、午後9時から10時半まで行う。全学学類・専門学群代表者会議(全代会)でも厚生委員会を中心にパトロールへ参加を予定している。吾妻地区自警団には、すでにボランティアで参加する本学生もいるという。

学生生活課の石山隆行課長は「学生にもぜひ参加して欲しい」と話した。パトロールを行う時間は各自警団と異なる。自警団と学生のマッチングが必要だ。大学の窓口は学生生活課が務める。

この夏、オーマイニュースという新しい形のニュースサイトが開発された。韓国発祥のサイトで、日本版の編集長はジャーナリストの鳥越俊太郎氏。一般市民から募った「市民記者」による記事の執筆が特徴だ。

鳥越氏といえは「週刊金曜日」だから、論調はいわゆる「進歩的」なものになるだろう。個人的には相容れない視点だが、それぞれのメディアが独自の論調を持つことは言論の自由が保障されることである。だがそれは、他者の批判を受け止める責任を果たしてこそだ。

批判受け止める姿勢をこそ

日本版オーマイニュースの準備プログラムにはコメント欄がない。正確にはあるのだが、これは登録した市民記者のための機能で、一般の利用者には閲覧できない。コメントを覗いてみたが、そのほとんどが同僚記者が執筆者を褒めたり、「進歩」の度合いが足りないなどと激を飛ばすものだった。保守、つれを起してきただけではないか。批判を受け止める、自らの力で生きていくという姿勢が障害者の側に無い限り、批判者と理解しあうときなど永遠に

ネット上の言説をながめてみると、障害者に手厳しい意見がかなり存在していることがわかる。用意された特権に努力を経ずすがりつこうとする姿勢が、障害者・健常者との間にあってはならないのではないか。批判を受け止める、自らの力で生きていくという姿勢が障害者の側に無い限り、批判者と理解しあうときなど永遠に

大学説明会

専攻内容詳細に説明

「イメージぴったり」「学際性は？」

新たな学群編成のもとでは初めてとなる、「受験生」が参加した。来年行われるための筑波大学説明会が7月26-28日の3日間、開催され、昨年より188

一人多い8919人の受験生が参加した。来年行われる学群改組では、現行の7学群15学類が9学群23学類に改組される。新しく設置さ

れる学類は、模擬講義や施設見学などを通して、それぞれの教育体系の特色などをアピールした。自然学類4専攻は学類化の説明会では、3年次以降

の専攻分野の説明が行われた後、陸域環境センターで施設見学が行われた。炎天下で参加した受験生は真剣な表情で施設をつぶさに見て回った。実験水路では深さ2メートル、幅4メートル、長さ200メートルの水路の向こうから、ごう音を響かせながら流水が迫って来るのを見て、参加者は喚声をあげた。

今年、昨年の自然学類の説明会と比べると、地球環境学や地球進化化学など、地球科学の専攻内容がより詳細に説明された。新しく作成されたパンフレットでは、各研究室の研究内容や卒業生の進路なども詳しく紹介されている。



地球学類の施設見学(ともに陸域環境センターで)

自然学類が4つの学類へ

と改組されたことについて「早くから専門分野に集中できる」(高3女子・埼玉県)「すでにやりたいことが決まっている受験生にとっては、このほうがいい」(同男子・神奈川県)といった声が聞かれた。

2日目、春日キャンパスで行われた情報メディア創成学類の説明会では、プレゼンテーションのあと、模擬授業が行われた。小高和己教授(図情メ)の授業では、ロボットアームを利用して手書き文字認識装置について、デモンストレーションを交えた授業が行われた。ロボットシステムの講義を聞いた参加者も、実際にロボットアームを操作す

ると、興奮した表情で思いの文字や絵を描いた。福島県から参加した高校3年生の男子は「学類の名前も、研究している内容も、理想とするイメージにぴったり」と、興奮した様子で語った。

3日目に行われた人間学群の説明会では、大会館

講堂に約1000人の学生が参加した。今年、昨年の人間学類の説明会とくらべ、教育学や心理学など、学類専攻分野の詳細な説明が行われた。教育学類の説明では「教員養成では、教育の専門家として様々な分野で活躍できる人材を育成したい」と説明した。一

方で、入学時から専攻にわたれることにより、「学際性」がなくなるのではないかと、といった声には、「1年次には必修で基礎科目を履修することで補う」と話した。

1学期卒業式 88人巣立つ

06年度1学期末卒業式及び大学院学位授与式が7月25日に大会館特別会議室で行われた。今年、学群生18人が卒業し、博士課程修士20人、論文博士18人、修士課程修了者21人、博士前期課程修了者5人、専門職課程修了者4人、博士課程修士2人の計70人に学位記が授与された。

春日3丁目 コンビニ強盗

つくば市春日3丁目のコンビニは春日3丁目5日の午前3時ごろ、男が店内に押し入り、カウンタにいた店長ら2人にスタングンを突きつけ、「金を出せ」と脅した。店長は男に雑誌を投げつけ、男は何も奪わずに逃走した。つくば中央署の調べによると、男は年齢20歳代後半、身長160センチ前後でやせ型。犯行当時、茶色のパーカーに、灰色のベレー帽をかぶっていた。

サークル装い勧誘

教師が女性信者に性的暴行をしたとされる韓国の宗教団体「摂理」が、全国50以上の大学で学生信者を獲得していたことから、本学は各学群の学生用掲示板に、サークルを装った勧誘

に気を付けるよう、告知し注意を呼びかけている。同宗教団体の国内信者約2千人の6割が集中する首都圏では、東京大、筑波大、千葉大、早稲田大が多

い。本学は、掲示板などで

注意を促しているが、具体的な対策はとれないというのが実態だ。同宗教団体は、教祖側の指示を受けた信者らが有名大学の構内に潜入し、スポーツや文化系のサークル活動を装い、学生を誘い込むといった手法を使っている。

蚊取り線香 by φ

第32回雙峰祭

テーマは筑波再発見

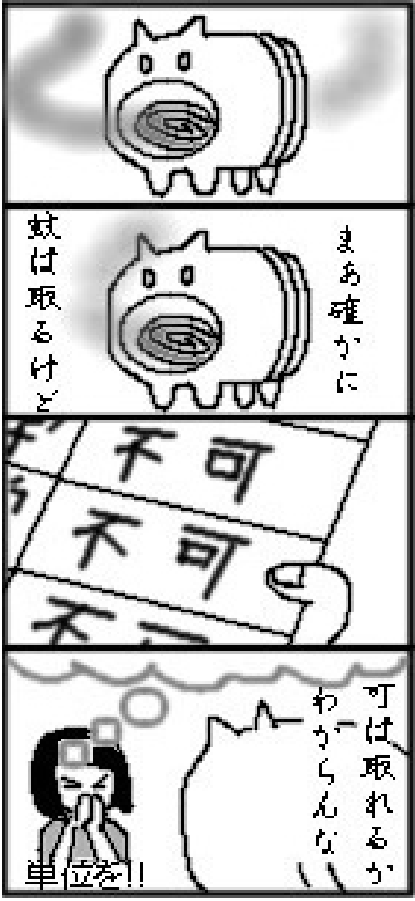
見応えの企画充実

アスベスト工事 体芸棟は利用できず

今年行われる第32回雙峰祭の概要が決まった。今年10月7-9日までの3日間行われる。テーマは「筑波再発見」...



オフィシャルポスター(右)と、マスコミキャラクター「イノキ」(左)



「日」が催される。また、9日には日本サッカー協会専務理事を務める田嶋幸三助教授(体育)を招いての講演会「2006年ワールドカップから未来へ」も予定されている。

ダンスフェスティバル 2年ぶり最高位賞 孤独感と母の愛を表現

全国から毎年100校以上の高校・大学が集まり熱演を競う第19回全国高校・大学ダンスフェスティバルが8月2-4日の3日間、神戸文化ホールで開催された。

自転車盗難多発 つくば中央署 300ワット、0.4馬力が必要だ。操縦席ではパイロットが自転車のようにペダルを漕ぎ、プロペラを回す。

2部門にエントリーした。現役チームはデイスダンス部門の書類審査に落ちてしまったが、OBチームが新設のタイムトライアル部門に出場した。

議員インターンシップマッチングフェア 現職議員に質問相次ぐ

「年収は」「陳情への対応は」

月8日、1D303教室で開催された。当日は、五十嵐立青つくば市議(民主)川口浩良議(同)、伯耆田富夫守谷市議(無所属)、宮本次郎つくば市議(同)の4人の議員と学生5人が参加した。

参加学生はその後、申込用紙に第1希望の議員の名前と、議員活動に参加可能な時間帯などを記入した。議員と学生のスケジュールを照らし合わせ、インターン先を決めた。

「風速4.7メートル。風が強いですが、気をつけよう。風力測定係の音が響き出した。風雨の中、機体を支えて風が止むのを待つ。横殴りの雨が降り始めた時、午前2時半、利根川河川敷にある大利根飛行場で行われた試験飛行だった。

「飛ばす情熱、作り上げる感動」 翼と21メートルの下翼をもつ複翼機だ。全長8.9メートル、全幅2.8メートル、全高3.9メートルで機体重量は42キログラム。機体を動かすには約300ワット、0.4馬力が必要だ。

夏の鳥人間たちの生活リズムは流動的だ。同行した8月17日、現役チームは最後の記録飛行に向け、2夜連続の試験飛行だった。



大学の専攻のことなど、話題は多岐に及んだ

つくば鳥人間の会

「鳥人間」の会は1987年、「鳥人間コンテスト」に出る会としてその活動を始めた。会長は染矢裕美さん(芸専3年)は学類や学年を越えて一つのものを「飛ばす」という情熱のもとに作り上げるのは、この上ない感動です。



飛ばす情熱、作り上げる感動

だが、飛行機が空を飛ぶ瞬間は、全員が同じ空を飛んだような気持ちになれる。今年、現役チームとOBチームが

秋季スポーツデー

受付は9月4日から

第30回秋季スポーツデーが10月21、22日の両日行われる。種目は、駅伝、バレーボール、キックベース、バドミントン、ソフトテニス、サッカーの6種目に今年30周年記念企画の大学生クイズが加わる。

申込用紙の配布は9月4日から29日までの期間、次の場所で行われる。

■昼休み

一学C棟前、二学・三学間の中庭、体芸中棟付近、医学食堂前、図情食堂前の申込所。

■HP受付

http://www.s.t.u.t.s.u.t.s.u.t.ac.jp/~sd/

■昼休み以外

青い受付ボックスで受け付ける。設置場所は一学A棟掘込板前、二学B棟2階書籍部前、三学A棟2階階話室、B棟事務室前、体芸中央棟連絡情報閲覧室、医学A棟事務室前、体芸2階スポーツデー室前、中央図書館入り口、各宿舎共用棟。

9月12日1日201で30周年記念講演会「スポーツー発展のためのパネルディスカッション」が予定されている。この他、スポーツ・アスベスト除去工事

教室変更要注意

耐震改修及びアスベスト除去工事に伴う教室変更は、原則として10月から教室変更。総合科目Aは9月20

天上大風

8団体が実演など

伝統文化系サークルが日頃の活動の成果を発表する、第11回天上大風(主催)研究会などが発表を行う。9月24日午後1時から午後5時20分まで開学記念館で開催される。

広告

新人記者募集

編集部では、新人記者を募集しております。企画の立ち上げから取材、撮影、執筆、編集まで全て学生の手で行っています。

次号は

10月16日(月)

発行予定です

大学会館書籍部ベストセラー

Table with 2 columns: Rank (1-10) and Book Title/Author/Store. 1. 戦記II さいはての地へ (ル=グウィン/岩波書店)

催事

説明会

◆人文学類就職説明会 9月22日、第一学群D棟204号室で。午後3時15分から6時15分まで

演奏会

◆筑波大学管弦楽団第60回記念定期演奏会 10月1日、東京文化会館大ホールで。

筑波野生動物図鑑

カブトムシ



夏休み、夜の大学構内ではカブトムシを頻りに目にする。ペダストリアンやループ道路で夜間照明の灯りに誘引されて飛来する個体を見かけることが多い。

8月の1位は、ル・グウィン『戦記II』さいはての地へ。6位は三浦しをんの第105回直木賞受賞作『まほろ駅前多田便利軒』。

つくばFCゼネラルマネージャー

石川慎之助さん(シス情博士後期1年)

ワールドカップが開催された今年6月、石川慎之助さん(シス情博士後期1年)は、1週間ドイツに滞在した。日本代表の試合も観戦した。しかし、二週間いて、観光はほとんどしていないという。

地域の理解・支援が大事

天然芝が選手育てる

は少ないかも」と笑う。文武両道を旨とする校風のためサッカー部員は成績を張り出され、成績が落ちると試合には出られなかった。中高とサッカーを続け、大学はサッカーをやれることをまず考え、本学の工学システム学類に推薦入学。



芝生に水を撒く石川さん(造営中のグラウンドで)

石川さんはつくばFCを「下から積み上げてゆくクラブ」という。ユニホームの背には地元

丹野直美(人文学類)